

テーマ 「 環境 」 9月

ゆたか保育園(品川区) 5歳児クラス

テーマ設定理由：自然に囲まれたゆたかな環境や、園庭を活用した植栽活動を通じて、子どもの主体性を育むため

活動名 「 日々の活動から光への興味の広がり 」 ねらい

- ・水や廃材の特性を知る
- ・様々な材料を通して見る光の面白さを感じる

用意した環境 (素材、道具)

- ・プラカップ ・水 ・朝顔 ・傘袋 ・ラップ
- ・ペン ・クレープ紙 ・トイレットペーパーの芯 ・セロファン

子どもの姿

- ・朝顔の花を水の中ですり潰し、色水作りを楽しんでいた
- ・朝顔の花で作った色水は時間の経過とともに、色が濃くなることに気が付き不思議さを感じていた
- ・廃材制作を通して、双眼鏡を作り、レンズ部分にペンで色を塗って透ける様子を楽しんでいた
- ・作った色水を傘袋に入れることで、透き通る様子や入れる順番にもこだわって作っていた
- ・机に色水の影が映り、色つきの影が映し出されることに不思議さを感じて繰り返し試していた

保育者の振り返りと気づき

- ・経験を通しての気づきが、色水やラップを通して見る光の違いに気がつくきっかけになっていると感じた
- ・子どもたちが日々の活動を通して、光への興味が広がっているため、今後は光にフォーカスした活動を増やしていく



活動名 「 ゆり組 光のアート 」

ねらい

- ・光を使った遊びを楽しむ
- ・光を当てた際のペットボトルの色の变化や、影を楽しむ

用意した環境(素材、道具)

- ・ペットボトル ・油性マジック ・水 ・懐中電灯
- ・プラスチック段ボール板 ・大型プレート

子どもの姿

- ・光を当てるとどう映るのか楽しみにしながら、各々自由にペットボトルに絵を描いていた。完成すると光をあてて床や壁に、油性ペンで描いた色が映ってキラキラ光る様子を楽しんだり、どうしたらよりきれいに光が映るか試行錯誤していた
- ・友達の映している光を見て「綺麗だね」と伝えて自分も真似しようとしたり、「下から光を当てるとこうやって光るよ」と自分の工夫を伝えたりしていた

保育者の振り返りと気づき

- ・子どもたちの中で光の色、形、壁への映り方、影の大きさなど、様々な気づきが生まれた。その中で物語を作ったり、影絵を楽しむなど、発想が展開していった
- ・今後はクラス全体で発表会(仮称 ふゆらんど)に向けて、光の活動を取り入れていく



テーマ 「 環境 ～ 光 ～ 」 11月

ゆたか保育園(品川区) 5歳児クラス

活動名 「 光の実験～ステージ作りへ 」

ねらい

- ・光の反射や透過の面白さに気づき、様々な教材を使って試行錯誤をして遊ぶ

用意した環境（素材、道具）

- ・油性ペンで模様を描いたり、カラーセロファン、水を入れたペットボトル（12本）
- ・懐中電灯（2本）
- ・置き型のライト（8個）
- ・アイドルの手作り衣装

子どもの姿

- ・自分たちでベースの電気をどの部分にどれくらいつけるか、何度も点けたり消したりしながら明るさの調整をしていた。実際は全体が明るすぎてペンライトの光が見えなかったということで保育者が「どうしたら見えるかな？」と問いかけると「光を反射させればいいんじゃない？」との意見が出てみんなで鏡の前に行きライトで照らしてみていた。「虹が見える」「いい感じだね」との声があがっていた
- ・実際明るくて見えづらかったペンライトの照明も、暗い部分に照らすなど試行錯誤したり工夫したりしていた

保育者の振り返りと気づき

- ・ステージ（お客さんに見せること）を意識した並び方を考えるようになってきた。子どもたちから“ライトでアイドルを照らそう”という考えが出てきて、試行錯誤していた。失敗からの気づきもあり、友達と意見を出し合う姿も見られるようになった



テーマ 「 環境 ～ 光 ～ 」 12月

ゆたか保育園(品川区) 5歳児クラス

活動名 「 きらふわちーむ アイドルステージ
(プレオープン)」

ねらい

- ・ 様々な材料を通して見る光の面白さを感じる
- ・ 身近な経験を模倣したり表現したりして楽しむ

用意した環境 (素材、道具)

- ・ アイドルの手作り衣装
- ・ セロファン、水を入れたペットボトル・置き型ライト (8個)
- ・ 花、紙吹雪 (京花紙、折り紙/金、銀) ・ オーディオデッキ

子どもの姿

- ・ 紙吹雪を始めは京花紙で作っていたが、紙吹雪担当が「キラキラ光るようにしたい」と反射する素材を選び、途中で金と銀の折り紙に変更した。また、特製ライトの位置やライトの光が良く見えるように小窓のカーテンを閉めることも子どもたちからのアイデアで決まった
- ・ 前日に自分たちで書いた招待状を他クラスや職員に届け、見に来てもらうことに期待感を膨らませていた
- ・ 1、2、3、4歳児クラスを招いて、ステージごっこでは緊張した表情を浮かべながらも、アイドル、照明、紙・花吹雪の役割をクラス全員で割り振り、協力しながら行っていた

保育者の振り返りと気づき

- ・ アイドルに照明を当てる方法は様々な方法を試す中でペンライトに変更し、取り入れることになった。また、自分の役割はありつつ、クラス全体で“ステージを作る”という共通の目的をもって光に触れることが出来た

